

令和 6 年 5 月 30 日現在

機関番号：12601

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2022～2023

課題番号：22K19987

研究課題名（和文）周縁の詩的言語と象徴主義：イスパノアメリカ・モデルニスモの比較文学的研究

研究課題名（英文）Poetic Language of the Peripheries and Symbolism: Spanish American Modernismo in Comparative Perspective

研究代表者

棚瀬 あずさ（Tanase, Azusa）

東京大学・大学院総合文化研究科・准教授

研究者番号：70963627

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,900,000 円

研究成果の概要（和文）：19世紀末から20世紀初頭までイスパノアメリカを中心に展開された文学運動「モデルニスモ」は、スペイン語文学、中でも特に詩の主題や語法を、西欧芸術をモデルに拡大することを目指す運動であり、同時期に世界規模でインパクトを持ったフランス象徴主義の影響を強く受けながら展開された。本研究は、モデルニスモの詩がフランス象徴詩との関わりにおいて持つ固有の性質を、両者の原典の比較分析から明らかにしようとするものである。研究期間全体を通じて、各地の文化・社会に由来する詩的言語の地域的特質について、社会思想・宗教・哲学的観点から研究を進め、また、さらなる研究の発展の基盤を得ることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

「同時代の西欧の模倣によって近代化することを試みながら、同時に地域独自の表現の獲得を目指す」というモデルニスモの相剋をその言語表現に読み取る本研究の成果は、モデルニスモ研究や象徴主義研究の分野において画期的であるほか、1990年代以降に主に欧米で構築された「世界文学」という新しい議論の枠組み（F・モレッティ、D・ダムロッシュ、E・アブターほか）にも応えている。また、「文化の一元化への圧力に周縁の文化はどう応えるのか」というより一般的な問いへの応答としても位置づけられる。

研究成果の概要（英文）：Modernismo, a literary movement that emerged in Spanish America during the late 19th and early 20th centuries, sought to expand the themes and styles of Hispanic literature, particularly poetry, using European artistic trends as a model. The movement was especially influenced by French Symbolism, which had a global impact during the same period. This research project aims to identify the distinctive aspects of Modernismo poetry in comparison to French Symbolist poetry through a detailed analysis of original texts. The objective of this project was to examine the regional characteristics of the poetic language, with a focus on the cultural and social background of each region. This analysis provided a foundation for further research and development.

研究分野：スペイン語文学

キーワード：ラテンアメリカ文学 スペイン語 近代詩 世界文学 象徴主義

## 1. 研究開始当初の背景

19 世紀末の西欧では、幻想性、デカダンスなどの共通傾向を持つ芸術が、パリを中心に国を越えて栄えていた。1890 年代にイスマノアメリカで確立し、1910 年代までスペイン語圏全域を席捲したモデルニスは、スペイン語文学、特に詩の主題や語法を、そのような西欧芸術をモデルに拡大し、モダン（近代的）なものにすることを目指す運動である。しかし、イスマノアメリカの作家たちはそのことを通じて、旧宗主国スペインの文化的衛星の立場を脱し、固有の文学を得ることを目標としてもいた。つまり、モデルニスは、先進的外国芸術への適応でありつつ、地域の固有性を追求するナショナリスト的側面も持つという相剋をはらんでいる。ところが、従来のモデルニスモ研究は、この相剋が作品にいかに反映されているかを十分検討してこなかった。イスマノアメリカ発の主な研究は（M. Henríquez Ureña, J. Ramos ほか）モデルニスモを外国の模倣として批判する地域内部からの声に反論するために、スペイン語文学史の範疇における革新性を理由に運動の意義を正当化することに注力してきたいっぽうで、スペイン発の研究は（R. Gullón ほか）モデルニスモの概念をスペイン文学にも適用したいがために、その特徴を 19 世紀末の西欧語圏の芸術の共通性に無条件に帰してきたので、両者の視点を統合する研究が生まれなかったのである。

研究代表者の過去の研究からは、モデルニスモの詩人たちが、とりわけ象徴主義の作品と理論を知悉し創作の理想としていたことがわかってきた。象徴主義とは、19 世紀のフランス詩人の作品に共通して見られる、科学的・写実的な世界認識から逃れる不可視のものや観念を暗示的な言葉である「象徴」によって捉えようとする志向を指して、1880 年代にフランスで生まれた概念である。1880 年代後半から 1890 年代には、その実践を目指す自覚的運動がパリで展開され、そこでの理論化に促された結果、象徴主義は国外に広く伝播して「世界の文学史上初めて地球規模で展開された文学運動」（R. Etiemble）となった。モデルニスモの詩は、したがって、象徴主義の世界展開の一形態とみることもできる。A. Balakian が編纂した論集 *The Symbolist Movement in the Literature of European Languages*, 1982 のように、象徴主義の諸相をモデルニスモも対象に含めて語圏横断的に捉える研究の試みも既にある。ただし、そこでの西欧以外の地域の扱いは、基本的データの紹介にとどまっている。

では、モデルニスモの詩はフランスの象徴主義の詩と同質なのか。研究代表者は、後述する「着想に至った経緯」から、「非国家的な課題」（Balakian）を扱うといわれる象徴主義の世界展開の中に、実は各地の文化・社会的背景に由来する看取りづらな地域的特質があり、それが詩的言語に反映されているのではないかと、という仮説を立て、原典の緻密な読みを通じてこの問いの検証を試みることにした。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、フランス象徴主義の影響下で創作されたイスマノアメリカのモデルニスモの詩が、フランス象徴詩との比較において有する固有の性質を、原典の綿密な解釈に基づいて、それが生じる文化・社会的要因とともに示すことである。

## 3. 研究の方法

モデルニスモの主導者としての役割を果たしたニカラグア出身の詩人ルベン・ダリーオ（1867-1916）と、フランス象徴主義の中心的な存在であった詩人ステファヌ・マラルメ（1842-1898）の詩の比較分析を行なった。ダリーオはマラルメをはじめとするフランス象徴主義の作品や理論を熱心に読み、象徴主義的な芸術観を自身の芸術観の礎にしていた。

## 4. 研究成果

以上の分析の結果、本研究は、マラルメの詩における中心的な主題である「無」（“néant”「空無」）を、ダリーオはマラルメから継承しつつも、ダリーオの詩におけるその取り扱いのあり方にはマラルメとは決定的な違いがあることが明らかになった。マラルメにおける「無」は、すべての存在の基盤をゆるがす絶対的な「無」であり、そこには生はおろか、死さえも存在しない。

マラルメは、すべて偶然性を廃した絶対的な完全性として「無」に理想を見だし、そこに人間が詩作を通じてどのように近づくことができるのかを、詩的言語を通じて模索したのである。マラルメが「無」を表象するために用いた語彙を、ダリーオは自身の作品で模倣している。しかしながら、ダリーオにおいては、理想はつねに充溢、豊満、光りかがやくものとしてイメージされており、マラルメのような空白の「無」ではなかった。

さらに、本研究はこのような違いを、キリスト教信仰をめぐるフランス・イスパノアメリカの状況（「神の死」）と、スペインからの独立以降 100 年を経ておらず、国民国家の抛りどころとしての自国文化創出の途にあったイスパノアメリカの文化的空白状況のなかに位置づけた。

以上の成果は 2023 年 11 月に開催されたルベン・ダリーオ国際シンポジウム（ノートルダム大学）において報告した。また、論文にまとめたものが、2024 年度中に雑誌に掲載予定である。

本研究期間においてはさらに、C・ボードレー、A・ランボー、P・ヴェルレーヌ、A・サマン、H・ド・レニエといったフランスの詩人の作品、また、R・ハイメス＝フレイレ、L・ルゴーネス、J・エレラ＝イ＝レイシグといったイスパノアメリカの詩人の作品の分析から、ペシミズムの美学、文学の伝統との関係、という 2 つの論点について状況を整理し、エル・コレヒオ・デ・メヒコ大学院大学における講演（2023 年 8 月）、東京大学ヒューマニティーズセンターにおけるシンポジウムでの報告（2023 年 10 月）、東京スペイン語文学研究会での報告（2023 年 11 月）において発表した。これらの成果は、本研究期間終了後に研究代表者がさらに研究を発展させるための基礎となった。

また、20 世紀アルゼンチンの作家 J・L・ボルヘスの詩を、フランスをはじめとするヨーロッパ近代詩と、ボルヘスの一世代前にあたるモデルニスモ詩との関連から読解することで、ボルヘスの詩に両者を横断する系譜を見出し、その研究成果を論文「詩人ボルヘスとモデルニスモ：『創造者』論」（2023）にまとめた。

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 1件）

1 . 著者名 棚瀬あずさ	4 . 巻 13
2 . 論文標題 詩人ボルヘスとモデルニスモ：『創造者』論	5 . 発行年 2023年
3 . 雑誌名 迷宮	6 . 最初と最後の頁 22-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 1件／うち国際学会 2件）

1 . 発表者名 Tanase, Azusa
2 . 発表標題 Traducir la modernidad: Fin de siecle y las contradicciones del lenguaje poetico en Hispanoamerica y Japon
3 . 学会等名 Centro de Estudios Linguisticos y Literarios, El Colegio de Mexico（招待講演）（国際学会）
4 . 発表年 2023年

1 . 発表者名 棚瀬あずさ
2 . 発表標題 翻訳できない言葉が翻訳されるとき：19世紀、パリ、そして 辺境 の詩人たち
3 . 学会等名 東京大学ヒューマニティーズセンター リエゾントークVIII
4 . 発表年 2023年

1 . 発表者名 Tanase, Azusa
2 . 発表標題 Ruben Dario, lector del simbolismo
3 . 学会等名 Simposio Internacional "Ruben Dario: el archivo y la vida"（国際学会）
4 . 発表年 2023年

1．発表者名 棚瀬あずさ
2．発表標題 近代詩の地域性：新しいイスペインアメリカ・モデルニスム研究のためのノート
3．学会等名 第205回東京スペイン語文学研究会
4．発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6．研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------